

ACT!

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2021年 4月号



東モスルの術後ケア病院で、治療を受ける子どもたち(2019年撮影)。

©Eliasa Fouad/MSF

特集1

日本人スタッフも奮闘。 紛争復興中のイラクに医療を!

スタッフの声

早く治療ができていれば。
消えない思い
手術室看護師 大竹 優子

特集2

東日本大震災から10年。
田老診療所のいま

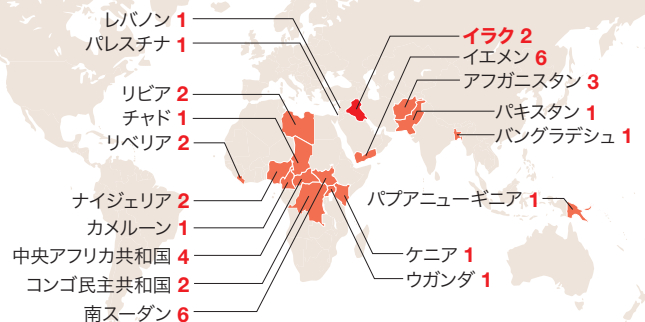
【連載】

もっと知りたい! MSFスタッフの素顔

フィールド人事部 ティバーチャーオフィサー 勝野 実

日本からのスタッフ派遣状況

18の国と地域 38人(2021年3月8日現在)



日本人スタッフも奮闘。 紛争復興中のイラクに医療を！

過激派組織「イスラム国」の支配から解放されてまもなく4年、いまだ約127万人が避難生活を送るイラク。復興が思うように進まない中、新型コロナウイルス感染症の流行が、紛争で傷ついた人びとにさらなる追い打ちをかけています。イラク各地で奔走した日本人スタッフの話とともに、国境なき医師団(MSF)の活動の一部をご紹介します。



●はMSFが活動した場所(2020年)

モスル コロナ禍、住民の必須医療を守り抜く！

長年にわたる激しい戦闘により、多くの医療施設が壊滅的な被害を受けた北部の町モスル。医療はいまだ著しく不足しています。MSFは、紛争下で重傷を負い、高度な外科治療が必要とされる患者を受け入れる術後ケア病院を、町の東部で運営(表紙写真)。西部では緊急診療や妊産婦・新生児ケアなどを無償で提供し、コロナ禍においても、命綱となる従来の医療援助を止めないよう全力を尽くしています。

加えて昨年11月には新型コロナウイルス感染症の重症患者向けの専門病院を開設。立ち上げに携わったスタッフの声(左)もご覧ください。

バグダッド 新型コロナウイルス 感染症患者に希望を

昨夏以降、新型コロナウイルス感染者が後を絶たなかった、首都のバグダッド。紛争の影響で弱い医療体制はさらなる打撃を受け



モスルに新設された新型コロナウイルス感染症の重症患者向けの病院で、患者の対応をする手術室看護師の大竹優子。

感染者数は、昨年末から今年初めにかけて減少したものの、2月には再び増加。私たちは、再度の医療のひっ迫に備えて活動を続けています。



佐藤と、回復した患者さん。

カイヤラ 4年にわたる活動を現地保健省に移譲

昨年10月、MSFは2016年から運営してきたカイヤラの病院での活動を終了しました。同病院は手術室や集中治療室を備えた地域で唯一稼働している医療機関として、形成外科からリハビリ、心のケアまでを包括的に提供。医療ニーズの変化に合わせ、栄養治療や新生児ケアなど約30万人の健康を引き受けてきました。現在は、現地の保健省が運営を引き継いでいます。

イラクってどんな国？

紛争の影響で避難民となった人は最も多い時期で約600万人*にも上り、2017年の紛争終結後も、政情不安や経済的な問題によってキャンプに留まらざるを得ない人が少なくない。このほかシリアから逃れてきた難民も多く、MSFは多岐にわたる医療援助活動を続けている。

人びとはどんな状況？

いまだ約127万人が避難生活を送る

皆さまのおかげでできたこと(2019年)

日本からのスタッフ派遣15人(活動したスタッフ数 1379人)

*国連人道問題調整事務所(OCHA)発表(2020年)



Staff Story—スタッフの声

早く治療ができていれば。消えない思い

手術室看護師 大竹 優子 (2020年8～12月に活動)

まずはいつも私たちの活動を支えてくださる皆さまに心から御礼を申し上げます。今回のモスルへの派遣では新型コロナウイルス感染症の重症患者を受け入れる集中治療室病院の立ち上げに携わりました。イラクでは感染が疑われる症状があっても、周囲に知られることを恐れ、受診をためらう人が少なく、手遅れになることも多々ありました。また感染管理の観点から、入院後は家族ですら患者さんに触れるのは望ましくありませんが、家族の絆が強いイラクでは理解を得るのが難しい場面もありました。忘れられないのは、夜中に容体が急変して亡くなった55歳の女性のこと。白いご遺体袋に包まれ、触れるどころか顔を見ることさえかなわなかった息子さんから、「最後まで治療してくれて感謝している」と言われた時には本当に胸が詰まりました。もっと早く治療ができていれば。その思いはいまも消えません。



【動画でもっと詳しく】
大竹がイラクでの経験を語りました！
www.msf.or.jp/act_iraqevent



スマートフォンから▶

海外派遣スタッフを随時募集中！

ご興味のある方はこちらから
www.msf.or.jp/team_msf/



スマートフォンから▶

東日本大震災から10年。田老診療所のいま

10年前、MSFは、ホテル「グリーンピア三陸みやこ」の一室を借りて診療を支援する傍ら、6月から同施設の2階に仮設診療所を建築し、12月に寄贈。2016年8月までの約5年間、地域の人びとの医療を支えました。

被災した人びとに医療を。ホテルの中の仮設診療所

「一番大変だったのは、津波で全てが流された震災直後です。カルテも薬もないところから、診療機能を復活させなければならなかった。その段階で、MSFの皆さんが支援に入ってくださったことは、復旧への大きな足がかりになりました」。岩手県宮古市田老地区唯一の診療所、田老診療所で上席臨床検査技師として働く山本弘美さんは振り返ります。

現在、田老診療所は、高台へと移転。震災の年から寄り添い続けてきた橋本祥弘所長は話します。「MSFが寄贈してくださったレントゲン設備や検査機器などは、いま

もありがたく使わせていただいています。少し坂は多くなりましたが、同じく高台に移った地元の方にも通いやすい場所。頼りにしてくださる限り、ここでいまできることに全力を注ぐつもりです」



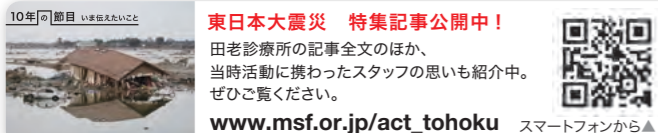
治療に当たる橋本所長。慢性疾患の方が多いそう。現在、新型コロナの影響は少ないものの、高齢者が多いため状況を注視している。

写真=田老診療所提供

東日本大震災 特集記事公開中！

田老診療所の記事全文のほか、当時活動に携わったスタッフの思いも紹介中。ぜひご覧ください。

www.msf.or.jp/act_tohoku スマートフォンから▶



連載

もっと知りたい！ MSFスタッフの素顔

国境なき医師団(MSF)で働くスタッフって、どんな人？今回は、活動地に向かうために欠かせない業務を担う、事務局スタッフをご紹介します。

「無事に送り出して、無事に帰す。 これからも全力で支えます」

フィールド人事部
ディパーチャーオフィサー(出入国手配担当)
かつの みのる
勝野 実

自己紹介 東京都出身です。大学卒業後、8年間旅行代理店に勤務。MSFへの入団は2006年で、以来海外派遣スタッフの発発・帰国業務一筋！自分では天職だと思っています。



パリのオペレーション・センターのディパーチャーチームと。海外派遣スタッフの出入国を安全・確実に行うためには、仲間たちとの連携が欠かせない(勝野は手前右端)。

質問1 どんな仕事を 担当していますか？

日本事務局には、海外派遣スタッフとなる人材を募集し、現地に派遣するための業務を担う「フィールド人事部」があります。私の仕事は出入国手配で、まず海外派遣が決まったスタッフには、健康診断やワクチン接種などの、出発前の必要事項を伝えます。出入国のための航空券やビザの手配をするのも大事な業務で、オペレーション・センター※や活動地の担当者と連携しながら、毎回最善のルートや方法を探ります。

質問2 苦勞とやりがいについて 教えてください

MSFの活動地はビザや入国許可の取得が非常に厳しい所が多く、また状況も

質問3 いつも応援してくださる 支援者さまへメッセージを

私が入団した15年前、日本からの海外派遣スタッフは年間約50人でした。いまは皆さまのおかげで100人近くを送り出すことができています。今後も、無事に送り出し、送り出した以上は必ず無事に帰せるよう、精一杯努めます。引き続きMSFへのご支援をよろしくお願いいたします。

変わりやすいため、緊急帰国が必要な場合も。柔軟性と忍耐力が求められます。また航空券代は皆さまからの大切なご寄付でまかなっているため、海外派遣スタッフの安全を確保しながらも、できる限り金額を抑えるよう心掛けています。各国のスタッフと協力して難しい出発や帰国をやり遂げたときには、心からほっとするとともに大きなやりがいを感じます。

※オペレーション・センター：世界各国のプログラムを運営管理し、チームを編成・派遣する組織。

仲間からも、ひとこと！

帰国日程が定まらず不安なときは「お助けマン」勝野さんにメールします。なぜなら彼の情報が一番信頼できるから。そして、返信に添えられる「大丈夫です」という心強い言葉に支えられ、任務に集中できるのです。



看護師
道津 美枝子

ニュースレター ACT! 2021年4月号

発行元
特定非営利活動法人 **国境なき医師団日本**
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報 に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料 平日9:00~18:00/
土日祝日、年末年始休業

※ご住所に変更がある場合は、上記までご連絡ください。
※新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、場合によっては寄付によるお手続きや領収書の発行といった、事務対応に遅延が発生する可能性があります。何卒ご了承くださいませようお願いいたします。

遺贈 に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430 担当者直通 平日10:00~17:00/
担当：荻野、今尾

国境なき医師団は、世界約70の国と地域で活動する、民間で非営利の医療・人道援助団体です。紛争地や自然災害の被災地、貧困地域などで危機に瀕した人びとに、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けています。年次活動報告書 www.msf.or.jp/library/annualreport/

ぜひチェック&フォローしてください

公式ウェブサイト

www.msf.or.jp



最新ニュースやメディア出演情報、イベント情報などをお知らせ



活動中のリアルな風景や、スタッフ・患者さんの姿をご紹介します



最新ニュースやイベントのご案内、スタッフの活動レポートなど



音や風景とともに活動地の様子が分かる

ご確認ください

●手術室看護師 白川優子が執筆中！

MSFの活動を、もっとたくさんの皆さまに知ってほしい。そんな思いから白川がつづったコラムが以下の二つのWEB媒体から発信されています。活動地で出会った忘れられない人びとや、派遣の際の意外な持ち物など、興味深い内容がいっぱい。ぜひご覧いただき、周りの方々にもお知らせください。



●情報・知識&オピニオン imidas

「国境なき医師団」看護師が出会った人々〜
Messages sans Frontieres ことばは国境を越えて
imidas.jp/msf

●朝日新聞デジタル&M(アンド・エム)

国境なき衣食住
www.asahi.com/and_M/series/yuko-shirakawa/



●MSFは、おかげさまで設立50年

MSFは今年で50年の節目を迎えました。医療にアクセスできず命の危機に直面する人びとに、無償で医療人道援助を届け、苦しみを軽減するという志は受け継がれ、ご支援いただいている皆さまとともに確実に広がっています。

